

福浜議員 要望項目一覧

令和2年度当初予算分

要望項目	左 対 する 対 応 方 針 等
<p>1. 農業関連について</p> <p>○本県のオリジナル品種「星空米」の本格生産と販売拡充に向け、老朽化と機能低下が著しいカントリーエレベーター等の施設保守・修繕費に対する支援を要望します。</p>	<p>施設再編や必要な施設・設備の見極めを行うための総合コンサルタントの実施に向けた研究会を立ち上げ、施設の長寿命化や再編等に必要な取組について支援を行う。</p> <p>・米穀施設長寿命化等対策推進事業 3,940千円</p>
<p>○値上がりしている農業用廃プラスチック処理費に対する助成を要望します。</p>	<p>J Aや外部有識者、県等で構成する「農業用廃プラスチック等適正処理対策推進協議会（仮称）」を設け、代替新資材（生分解性マルチ等）活用の調査研究を行うなど、対策について検討していく。</p> <p>・農業用廃プラスチック等適正処理対策推進事業 1,116千円</p>
<p>○集約化・効率化・大型機械導入等が困難な中山間地域の農業と集落維持に向けて規模拡大を伴わない場合でも機械設備更新が可能となるよう要件緩和を要望します。</p>	<p>がんばる農家プラン事業の2回目以降の要件については、現場からの要望を受け、規模拡大だけでなく、付加価値の増加を新たな選択肢として追加するなどの見直しを行う。</p> <p>また、集落営農組織を将来にわたって維持、継承していくための後継者確保、畦畔管理の省力化などの取組等に対する新たな支援を行う。</p> <p>・集落営農体制強化支援事業 34,474千円</p>
<p>○国府町でのブドウ生産拡大に向けて、施設・資材に対する支援を要望します。</p>	<p>国府ぶどうの1haの面積拡大に必要なハウス施設、機械、資材等は、国の「産地生産基盤パワーアップ事業」の活用に向けて、関係機関で協議を進めており、併せて低コストハウス仕様の開発を進め「鳥取型低コストハウスによる施設園芸等推進事業」の活用を検討している。</p> <p>巨峰・ピオーネ、シャインマスカット等の植栽にかかる苗木及び資材等への支援については、国の果樹経営支援対策事業及び県の鳥取柿ぶどう生産振興事業で支援する。</p> <p>・【2月臨時補正】鳥取型低コストハウスによる施設園芸等推進事業の内数 25,499千円</p> <p>・鳥取柿ぶどう生産振興事業 46,826千円</p>
<p>2. 林業関係について</p> <p>○主伐・再造林に必要な苗木確保に向けて、林業試験場による少花粉スギ・ヒノキ等コンテナ苗増産体制の整備、皆伐・再造林の低コスト化、再造林・保育事業に対する支援の強化を要望します。</p>	<p>再造林に必要な苗木の確保は、技術的支援に加え、苗木生産者等が行うコンテナ苗木の生産施設整備支援など、再造林に必要な苗木の確保に向けて引き続き取り組んでいきたい。また、皆伐再造林の低コスト化に繋がるモデル的な取組や早生樹林の造成に取り組む林業事業体を支援するとともに、再造林に係る植栽及び下刈り等の保育作業について、植栽樹種に関わらず90%まで嵩上げする。</p> <p>・皆伐再造林推進モデル事業 19,963千円</p> <p>・皆伐再造林推進事業 14,000千円</p>

要望項目	左に対する対応方針等
<p>○輸出量の拡大に向けて、海外需要の開拓と製材等への支援を要望します。</p>	<p>韓国への継続輸出に加え、新たな輸出先の調査及び輸出向け製品の開発等への支援を行う。</p> <p>・「木づかいの国とっとり」県産木製品輸出チャレンジ事業 6, 230千円</p>
<p>3. 水産業関係について</p> <p>○県漁協が要望している藻場減少対策やアカモク・アラメ等の生産拡大に向けて、実証実験で成果が顕著な「石炭灰とフェロニッケルスラグ」を用いた藻場造成ブロックを活用し、沿岸域や港湾内外での藻場造成を県単独で事業化することを要望する。成果が上がれば、豊かな漁場形成に繋がるのは基より、鳥取県発の藻場再生プロジェクトとして全国展開を図れるのと同時に、石炭灰やスラグの新たな有効活用として環境改善にも寄与するものと考えます。</p>	<p>県漁協は、効果、継続性、メカニズムが未解明で設置にも多額の経費を要する「石炭灰とフェロニッケルスラグ」の活用に理解が得られていないことから、当面、県としては、県漁協からの要望で行っている安価で設置が容易な「木毛プレート」を用いた藻場造成手法の研究を進めていきたい。</p>
<p>4. 交通・運輸関係について</p> <p>○鳥取西道路の開通と相まって、無料区間の鳥取道を経由して山陰方面を往来する車両が増えている。鳥取道の4車線化は、物流の効率化・観光推進・災害対策の面で必要性が極めて高く、早期実現に向けた国への働きかけの強化を要望する。</p>	<p>鳥取自動車道については、現在、智頭IC付近と鳥取IC付近で進められている付加車線の早期完成と、更なる付加車線設置等による暫定2車線の早期解消について11月12日に国に要望しており、引き続き国に働きかけていく。</p>
<p>○鳥取西道路では、携帯電話が繋がらない区間が多く、業務に多大な支障を来しているとの声が非常に多い。事故や大雪等、不測の事態対応にも支障となる恐れがあり、解消に向けて、関係機関への働きかけを要望する。</p>	<p>鳥取西道路の携帯電話不感対策については、携帯電話事業者に要望を行っているところであり、不感の解消が順次図られているが、未だ不感地点も残っていることから、不感の早期解消に向け、引き続き要望していく。</p> <p>なお、不感対策は、各携帯電話事業者が加入する公益社団法人移動通信基盤整備協会が中継施設の整備等を実施しているものであるが、オリンピック・パラリンピックの関係で工事部材が不足し、対策に若干の遅れが生じている旨の報告を受けている。</p>
<p>5. 観光関連について</p> <p>○雪不足が深刻な若桜氷ノ山スキー場では、オフシーズンのゲレンデ活用策として地元の宿泊業者を中心に、MTBコースの設置について、県内のMTB関係者と情報交換しながら実現に向けて協議を重ねています。県内にはMTBコースがほとんど皆無（大山森の国に一部）の状態、県内外のMTB愛好者の誘客に繋がる狙いからです。出来れば今夏から試験的にも始めたい考えのようです。当面は、リフトを動かさない形でスタートするようですが、中長期的にはロードバイクが盛んな台湾からの観光客の新たなアクティビティになり得るコンテンツであり、県として町と連携し、スタート時からの息の長い支援を要望します。</p>	<p>近年、雪不足等によりスキー場の営業可能日数が減少している。また、これに伴い周辺の旅館・ホテル等の関連事業者においても宿泊キャンセル等の影響が及んでいる。</p> <p>このような中、冬季のスキーシーズンだけではなく、年間（オールシーズン）を通じた観光プログラムの提供による本県の新たな魅力づくりや観光誘客に向け、先進地の取組事例に関する研修会の開催や、地域資源を活用した体験型観光メニューの造成に対して支援を行うこととしており、若桜氷ノ山スキー場のオフシーズンのゲレンデ活用についても、地元である若桜町や関係者の協議状況を踏まえつつ、県として必要な支援を行っていく。</p> <p>・スキー場等におけるオールシーズンリゾート促進事業 4, 400千円</p> <p>・とっとりスタイルエコツーリズム普及推進事業（ニューツーリズム普及促進支援補助金） 5, 500千円</p>

要望項目	左に対する対応方針等
<p>○サイクリングロードが弓ヶ浜一帯で整備されましたが、ロード上の飛砂が多く、ツーリング愛好者の評判が芳しくないようです。今後、県外や海外からの誘客を本格的に狙うとするならば、飛砂の除去等・ロードの細やかな維持管理が必要になります。その対策について要望します。</p>	<p>「白砂青松の弓ヶ浜サイクリングルート」は、日本海を一望できる砂浜沿いのルートであり、路面に飛砂が堆積することがあることから、荒天の後やイベントの前には路面清掃を行っているが、3月に予定されている全線供用後は、利用者の増加が見込まれることもあり、利用者の意見も伺いながら、より快適に利用できるよう適切に維持管理を行っていく。</p>
<p>○また、県東部のサイクリングロードの内、トンネルが複数連なる国道9号の鳥取市八束水付近については、酒津漁港経由の迂回路が設定されていますが、東向きルートの場合、迂回路出口で横断歩道を渡らなければ左側通行出来ず、大半のツーリストが幅員の狭いトンネル内を走行しているのが実態です。 事故防止に向けて、トンネル内の照度を上げ、トンネル入口付近に「自転車走行アリ注意」の案内板等の設置による注意喚起を要望します。</p>	<p>サイクリングルートの検討に当たっては、トンネルが連続する区間を避けるために酒津漁港経由のルートを設定したところであるが、トンネル内の走行も想定されるので、自転車に対する注意喚起の標識設置やトンネル内の照度アップについて道路管理者である国土交通省に要望していく。 また、現在、酒津漁港経由のルート案内のための路面標示を整備中であり、今後もルートパンフレット等により、より安全である酒津漁港経由ルートの周知を行っていく。</p>
<p>6. 福祉関係について ○県社協の福祉人材センターへの相談件数は、この3年間で5倍に急増するなどこれまで以上に福祉・介護人材と現場とのマッチングが必要となっています。その就職支援にあたるコーディネーターの1名増員について要望します。</p>	<p>県社協に委託している「就職支援コーディネーター」を増員配置する。 ・「介護で働きたい！」を増やす参入促進事業（介護人材確保のためのマッチング機能強化事業） 9,616千円</p>
<p>○県身障者福祉協会が要望している点字資料作成に関わる助成制度創設について検討を進め、事業化するよう要望します。</p>	<p>障がい者団体がイベント等を開催する際の手話通訳者・要約筆記者等の派遣に係る経費への支援を行うとともに、情報保障の一環として、点字資料の作成への支援も拡充する。 ・点字資料等作成支援事業 300千円</p>
<p>○ロービジョンの内、網膜色素変性症の方にとって、交差点の点字ブロックは「黄色」のため、警戒（凹凸）ブロックの識別が、自分の足で凹凸を確認するまで出来ず、危険に遭遇する場面が少なくないと言います。こうした要望を受けて、米子市にあるメーカーが橙色の警戒ブロックを開発。 三重県伊勢市をはじめ、バリアフリー化に熱心な自治体から取り入れたいとの要望が来ているようです。あいサポート・共生社会を掲げる本県こそ、全国のモデルとして、いち早く導入すべきと考えます。市町村とも連携し早期改善を要望します。</p>	<p>点字ブロック（視覚障害者誘導用ブロック）の色彩は、一般的なアスファルト舗装との対比効果が発揮できる「黄色」を基本とすることが視覚障害者誘導用ブロック設置基準等に定められていることから、県管理道路において点字ブロックを設置する際には、「黄色」のブロックを基本としているところであるが、景観に配慮した色彩の舗装に設置する場合や、街路照明灯の影響を受ける場合等には、「黄色」以外のブロックの方が優れた対比効果が発揮できる場合もあるとされていることから、「橙色」のブロックの性能について、メーカーや福祉関係団体から聞き取り調査を行いたいと考えている。</p>

要望項目	左に対する対応方針等
<p>7. 私学関係について</p> <p>○NPO法人立勝田ヶ丘志学館の開校に伴い、同校を利用する予備校生が21%。逆に、県内私立予備校生が11～17%減、県外予備校生は2～4%減のという調査結果を私学協会が発表しました。この調査が適正だとすれば、予備校生の県外流出というNPO立の趣旨とは異なり、県内予備校の業務圧迫という事態を招いていると私学協会は主張しています。志学館が県立高校の施設を利用しているだけに公平な競争とは言えず、私学協会の主張は尤もであり、例えば、同校利用者には一定の所得制限を設けるなど、県として、民業圧迫緩和に向け協議するよう要望します。</p>	<p>ご指摘の調査結果については、根拠の確認や分析を行うとともに、今後、当該法人の開校が私立の各種学校にどのような影響を与えていくのか、一層注視していきたい。</p>
<p>8. 教育について</p> <p>○教育基本法第10条には、「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するもの」と明記されています。増加傾向の不登校食い止めについても、家庭のご理解や役割が重要であることは言うまでもありません。その一方、家庭教育の向上に関わる参加型の研修会等に、「出てきて欲しいご家庭が来ない」という声をよく耳にします。そこで他県の自治体の中には「家庭教育支援チーム」が、ご家庭を戸別訪問して、情報提供や専門機関への橋渡し等、家庭教育の推進で成果を上げているようです。本県で訪問型を採用している市町村がどの程度あるのか？実態を把握し、全県的な訪問型の実施を検討するよう要望します。</p>	<p>平成28年度より訪問型家庭教育支援の周知理解促進のための研修会等を開催し、平成29年度以降、本格的に体制構築に向けた講座を開催しており、現在、智頭町が小学校1年生を対象に全戸訪問を行うとともに、来年度7市町村が訪問型家庭教育支援の実施に向けた検討を行う予定である。</p> <p>また、令和2年度には、訪問型家庭教育支援の体制づくりを推進していくために、各市町村において、核となる人材を養成する研修会を実施することを当初予算で検討しており、今後も、市町村と連携協力しながら、訪問型家庭教育支援に取り組んでいきたい。</p> <p>・とっとりふれあい家庭教育応援事業 8,817千円</p>